

生産衛生管理ハンドブックとは？



初版 H23年 8月
第2版 H25年 11月

生産衛生管理ハンドブックの活用方法

- ・ 対策のほとんどは、病気の防止や生産性向上のために先進的な生産者などの農場において既に実施されているもので、必ずしも目新しいものではない。

飼養形態や周辺環境は農場によって多種多様であるため、それぞれの農場の状況に照らし合わせて

- ・ 実施している衛生管理の取組を再確認。
- ・ 食中毒菌の侵入・まん延防止のために具体的な対策を検討。

食中毒菌の農場・畜舎への侵入防止に重点

- 侵入経路は複数考えられる。
(野生動物、昆虫、車、人の服・靴、導入する家畜等)

農場の状況に合わせていくつかの取組を
組み合わせて実施。

- 動物は食中毒菌に感染(消化管内で食中毒菌を増殖させている)していても症状を示すとは限らない。

動物のふん便や環境材料等の食中毒菌を検査し、
自分の農場の状況を把握することが重要。

人も食中毒菌の感染源となる可能性がある。

- 人も食中毒菌に感染すると、便とともに食中毒菌を排せつする。

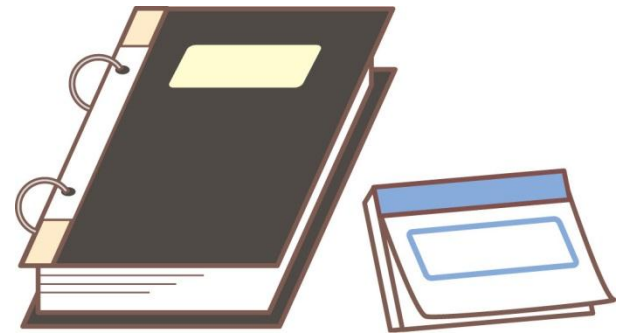
下痢やおう吐などの症状があるときは、他の人に作業をお願いする。

- 症状が治まった後でも数日間は、便とともに食中毒菌を排せつする可能性がある。

手指の洗浄・消毒を徹底する。

取組の効果を確実にするには

- 作業の手順を文書にして、作業場所に置く。
- 作業日誌を作成し、記録する。
- 作業日誌などの記録を保管する。
- 取組の効果を確認するために、食中毒菌の検査結果を確かめる。



飼養時の衛生管理

導入前

- ✓ 畜舎の洗浄・消毒
- ✓ 野生動物・昆虫の駆除
- ✓ 踏込消毒槽、作業衣等の準備

導入

- ✓ 導入家畜の健康状態の確認

- ✓ 日常の飼養衛生管理

出荷

- ✓ 出荷家畜の健康状態の確認